

幸若舞演目概要(令和7年1月20日上演分)

はまいで 【濱出】

別名を「蓬莱山」とも言い、祝言曲とされている。山を切り開き、沼地を埋め立て、一番高いところに源氏の氏神正八幡をまつり、鎌倉幕府の礎が出来たことを祝ったもの。

【日本記】

古事記・日本書紀から引用され、作詞されたもの。いざなぎ・いざなみの尊の国産みの神話を、仏教の世界観から大日如来を中心としたマンダラにたとえ、日本国の成り立ちを説明した物語。

やしま 【八島】

奥州落ちの途中、陸奥国信夫の佐藤庄司の館では、佐藤継信・忠信の母の尼公が山伏接待を行い、義経はこの接待を受けるが、身の上をかくして弁慶に継信・忠信兄弟の最後を語らせる。尼公は兄弟の華々しい戦死のさまに感涙する。

あたか 【安宅】

歌舞伎「勧進帳」「安宅の関」の名で、一般にもよく知られている場面である。鎌倉殿の追及から逃れ、京を追われた義経主従は山伏に身をやつし、奥州へと落ち延びていく。現在の石川県にある安宅の関の一場面。

ようちそが 【夜討曾我】

曾我物語を題材とした曾我十郎祐成・五郎時致兄弟の仇討ち物語で、工藤祐経を父の仇と狙う曾我兄弟の富士の狩場での一幕。二人が夜討ちの指南を受けた秩父殿らから、おぎっしょう(もてなすための酒や食物)をいただき、それを喜んで意気盛んになった様子を語ったもの。